

平成 29 年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	指導	題名	ユズ苗のポット養成による生育向上および早期結実効果の実証		
[要約] ユズの1年生苗木をビニールハウス内で1年間ポット養成することにより、地植苗よりも新梢伸長が増大し、定植後の樹体生育も優れる。また、ポット養成苗は、定植2年目から結実が見られ、定植3年目の収量は地植苗の約5倍となり初期収量が増加する。					
キーワード	ユズ	ポット苗	早期結実	技術部	果樹研究室

1 背景とねらい

陸前高田市では、東日本大震災以降、地域のユズを「北限のゆず」としてブランド化し、復興のシンボルにしようという取組が見られている。

当市における現状のユズ生産は、民家の庭先に点在した既存樹の果実を利用しているが、収量が限られることから、生産量増加に向け、ユズ苗の新植が行われている。一方、ユズは定植後、結実までに3~4年以上の年数を要するため、できるだけ早期に結実させる技術が求められている。

そこで、ユズ果実の早期の生産量増加を図るため、苗のポット養成技術（高知県開発）を導入し、生育向上および早期結実効果を明らかにする。

2 成果の内容

- ポット養成は、1年生苗を用い、下記および図1のとおり行う。
 - ポットは25Lポリポットを用い、育苗用培土・バーク堆肥・パーライトを等量混和した培土を用いる。
 - 施肥は肥効調節型肥料を植え付け時に培土表面に施用する。施肥量は窒素成分で10g/ポットとする（表1）。
- ビニールハウス内で1年間ポット養成することにより、地植苗と比較し、新梢伸長が2倍以上増大する（表1, 図2）。また、定植後の樹体生育は樹齢5年生時点で、樹齢6年生の地植苗と同等となる（表2, 図3）。
- ポット養成苗は、定植2年目から結実が見られ、定植3年目の収量は地植苗の約5倍となり、初期収量が増加する（表2, 図4）。

3 成果活用上の留意事項

- ポット養成時は、土が乾燥しやすいので、定期的にかん水を実施する。また、ハダニやミカンハモグリガなどの害虫が発生しやすくなるので、防除を徹底する。
- ポット養成苗の定植時期は、3月下旬~4月中旬頃（発芽前）とする。発芽後に移植すると、著しく生育が劣るため、注意する。
- 定植後は樹体生育を促進するため、株元の根の伸長部分に窒素成分で20~30g程度の施肥を5月~10月まで毎月1回実施する。

4 成果の活用方法等

(1) 適用地帯又は対象者等

ア 適用地帯：陸前高田市、大船渡市

(2) 期待する活用効果

ア ユズの新植苗が早期に結実し、収量向上が図られる。

イ ユズ原料の安定供給につながる。

5 当該事項に係る試験研究課題

外部資金課題名：食料地域再生のための先端技術展開事業 [H25~H29、国庫委託] (H25-13) ブランド化を促進する果実等の生産・加工技術の実証研究
(2000)「北限のユズ」の加工利用を推進する安定生産技術の実証と商品開発

6 研究担当者

浅川知則、佐々木真人

7 参考資料・文献

- 平成15年度 高知県農業技術センター果樹試験場 研究成果「ユズのポリポット利用による大苗育苗法」
- 平成25~29年度 岩手県農業研究センター 果樹試験成績書（一部未定稿）

8 試験成績の概要（具体的なデータ）

- ポット
25Lポリポット
- 培土
育苗用培土（スーパーミックスA）、パーク堆肥、パーライトを等量混和
- 肥料
肥効調節型肥料（スーパーエコロング（140日タイプ）等）を植え付け時に培土表面に施肥。
施肥量は1ポット当り、窒素成分で10gとする。



（鉢上げ後の管理）

- ・苗木は接ぎ木部から30cm程度上の部分で切り返す。
- ・切り返した部位の下部から伸長する強めの新梢3~4本を主枝候補枝として育成する。
- ・接ぎ木部は埋め込まず、少し地表面に出るようにする。

図1 ポット養成苗の作成方法

表1 ポット養成苗と地植苗の生育の比較（1年養成後）

試験区※1	施肥量※2	新梢長（主枝候補枝※4）（cm）				新梢発生数（本）		
		全長	春枝	夏枝	秋枝	春枝	夏枝	秋枝
ポット養成苗	N-5g	57.7	35.2	22.4	—	3.8	1.9	0
	N-10g	77.2	33.5	27.5	16.2	5.0	3.6	1.7
	N-20g	79.3	33.3	27.7	18.3	3.9	3.2	2.2
1年生苗地植	慣行※3	32.3	23.6	8.7	—	3.9	1.4	0

※1 ポット養成区は各10本、地植区（ハウスでの養成を行わず定植）は15本の平均値

※2 施肥量N-〇gは肥効調節型肥料の窒素成分量。

※3 地植区は果樹用化成肥料を5~10月まで月1回窒素成分で17g（肥料重量で100g）施用

※4 主枝候補枝：主枝候補として育成する生育の良い新梢3本の平均値



図2 ポット養成苗（左）と地植苗（右）
（1年養成後、H27.4）



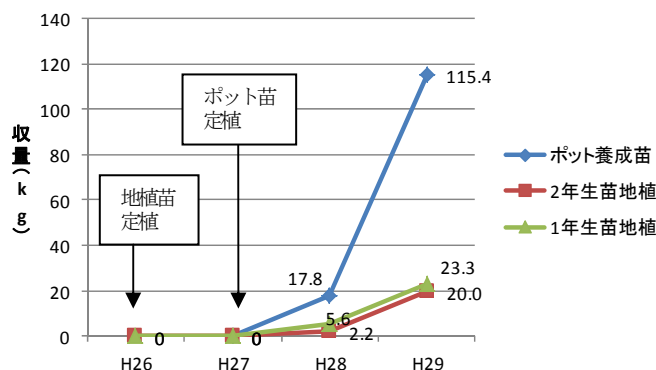
図3 ポット養成苗（左）と1年生苗地植（右）（H29.11）

表2 ポット養成苗の定植後の樹体生育（H29）

試験区	定植年	樹齢（年生）	樹高（cm）	樹幅（cm）	幹周（cm）	平均着果数（果/樹）
ポット養成苗	H27	5	214	142	14.1	9.8
2年生苗地植	H26	6	203	138	15.2	2.2
1年生苗地植	H26	5	200	128	13.0	2.2

※ポット養成苗：5本、2年生苗地植：5本、1年生苗地植：14本の平均値。

※ポット養成苗はポットを外して定植。



※10aあたり換算収量：3m×3m植え、111本/10aとして計算。

図4 ポット養成苗と地植苗の単収比較